

## 新宿区民会議 第一分科会

### 杉並区立 児童青少年センター「ゆう杉並」見学会レポート

- 日時: 2005年8月3日(火)午前11時～12時半
- 参加者: メンバー 井上、陣出、山田、渡辺 職員 並木、菊地
- 説明者: 「ゆう杉並」事業係 片山氏

#### 1. 施設概要

住所: 〒167-0051 杉並区荻窪1-56-3

電話: 03-3393-4760

開館時間: 年末年始と第二第四月曜を除く、午前9時—午後9時 (土曜は5時まで)

設備: B1F 体育室(567㎡)、工芸調理室(60㎡)、印刷室(19㎡)、更衣室(9㎡)

1F ゆうホール(180㎡)、メインロビー(213㎡)、相談室、コインロッカー

2F スタジオ1～3(各25㎡)、ミキシングルーム(18㎡)、ビジュアル鑑賞ルーム、  
学習コーナー、集会室1～2

#### 2. 開設経緯

##### 平成元年

杉並区内には41棟の児童館があった。0～18才が対象、午前乳幼児・午後小学生が利用する施設だったため、中高生は想定していなかった。

上記解決のため、中高生に対する「授業」を行うという理由で、17時までの開館時間を夜間に延長。しかしながら、中高生の参加は少なかった。

既存児童館との併用では、規模が小さくて中高生がやりたいことがやれない、小学生と共有することの限界があった

##### 平成6年

子供の権利についての採択を受け、区内で見直しの風潮が起きる。

同時に、児童福祉センターの老朽化に伴い改築の議論が起きる。

上記が合わさり、新たな青少年会館の建設への動きが始まる。

##### 平成6年5月～10月

建設検討委員会を設置。区内43名の中高生が参画。

何カ月も前に予約するのではなく、来たときに自由に使えるスペースを作るための模索が始まる。

自分達が望む施設像を作り上げ、区に提出。

建設費用 48億 30億・土地代金 17億・建設費 1億・その他  
男女平等推進センターとの複合施設として完成

### 3. 運営方法

年間予算:講師費250万、消耗品費160万、

職員数:18名 (うち11名正職員、7名嘱託)

平均出勤者数:12名/日

(区内の児童館担当者も同じ事務所内に在籍、当該施設運営には関与していない。)

#### <運営委員会方式>

委員: 区内在住か在学の生徒を対象とし、学校推薦か公募により、15名程を選出。

任期: 6月~5月の一年間。

委員会の目的: ①意見を出し合うこと、②魅力ある施設であり続けること。

活動例: ①会館の運用チェック=各講座の視察、アンケート収集、利用ルールの見直し

②イベント企画=年3~4本(3月アクティブフェスタ開催・本イベントでは出演するバンドメンバー自身も運営スタッフとして参画することが条件とし、110名のスタッフ運営を実施した。)

#### <自主企画実現システム>

運営委員会以外の自主企画を実施。

企画書を中高生自身が作成し、場所と費用(講師費・消耗品費)を支援。

(例)時代劇・殺陣講=演劇活動をしている高校生の企画。俳優指導者が講師

アフリカのリズムを感じよう! =アフリカ打楽器ジャンベのレッスン カメルーン人講師

のぞいてみよう!ココロの世界=東京メンタルヘルスアカデミー心理カウンセラー講師

ゲーム交流戦=TV ゲームのゲーム大会

ゆう杉縁日=文化祭形式 (有料)

夏のデザート=料理研究家の先生による料理教室

#### <プランナー方式>

立案は職員が行い、スタッフを中高生より募集。(イベント参加者に二度目の企画参加を持ちかける)

#### 7月のスケジュール

スタジオ利用者講習会、フリークライミング講座、HIPHOP 講座、Break 講座、PINGPONG 奪取、  
プチバレー等

#### 4. 利用実態

人数： 一日あたり平均210名

内訳： 3分の2＝中高生（中学生は近隣5～12校より、高校生は都内区内外より）  
3分の1＝小学生、幼児、保護者

#### 5. 利用規定の工夫

団体登録の3分の1以上は区内在住か在学

夜間19時以降の利用は、前日までに団体予約した人のみ利用化

⇒ 前日までに予約・・・家の人に前もって遅くなることを伝えられる。

⇒ 団体利用・・・帰路の安全確保、近隣に迷惑行為があった場合の通達方法確保

#### 6. トラブル対応法

開設当初は喫煙 月2件、喧嘩 年2、3件あったが、改善されてきている。

問題発生当初は、職員が監視し注意していた。⇒隠れて吸う様になり、どんどん見えないところに入ってしまい、いたちごっこになる。

子供たちとのコミュニケーションを重視する方法に転換

この施設ができあがった経緯、生徒自身つまり先輩が作り上げてきたものだと伝える。

現在の運営も中高生自身によって行われており、ルール違反の行為が全てを否定する行為であること、自由に利用できる施設で有り続けるためには利用者みんなの協力が大切だということを理解してもらう。又、虚勢を張らなくていい場所だと感じてもらえるよう職員の対応も配慮している。

上記努力により、トラブル数は減数傾向にある。

#### 7. 今後の課題

やりたいことが実現できる場所への進化

広報の充実

近隣地域との連携

（現状では他の児童館のように地域住民の参画がない。地域団体との密着接点がない。）

不登校生へのサポート

（現在は「ゆう杉ランチルーム」として平日に実施。ひきこもりになる一歩手前の生徒達を支援すること目的としており、職員と昼食を作り一緒に食べるプログラム。参加費は50円。サポートが必要な生徒に情報をいかに提供できるかが目下の課題。）